

# 東日本支部「土木遺産さんぽ」開催報告

東日本支部では、新企画として「土木遺産さんぽーまち歩きで学ぶ 江戸・東京の歴史ー」（理工図書）に掲載されたお散歩コースを、著者にご案内頂きながら、会員やその家族と一緒に土木遺産を通して江戸・東京の歴史を学ぶ街歩きをするツアーを開催しました。

## 開催概要

### ◇開催日

2025/11/8(土) 13:00~17:00

### ◇散歩コース

「飯田橋」江戸・東京の交通の要衝を歩く+「四谷・赤坂」江戸城外濠の西縁を歩く

### ◇案内人

日本大学理工学部 まちづくり工学科 阿部貴弘教授（「土木遺産さんぽ」ご執筆者）

### ◇参加人数

正会員：14名 正会員のご家族：2名 阿部先生、日本大学学生：3名 計：20名

## 集合写真

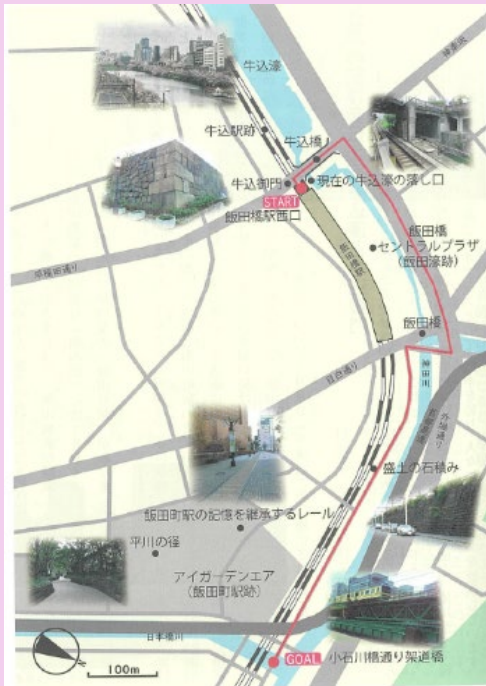




## ◇内容

11:30	ランチ(飯田橋周辺)※オプション
13:00	JR 飯田橋駅西口 集合
13:00~14:50	「土木遺産さんぽ」P25 飯田橋
14:50~15:00	水道橋~四ツ谷(JR で移動)
15:00~16:30	「土木遺産さんぽ」P15 四谷・赤坂
17:00~	懇親会(赤坂見附周辺)

## ◇コース MAP



飯田橋コース



四谷~赤坂コース

出典:「土木遺産さんぽーまち歩きで学ぶ 江戸・東京の歴史ー」(理工図書)

## 当日の状況

### (1) 11:30:散歩前(ランチ)

飯田橋駅西口のロイヤルガーデンカフェ飯田橋でランチ会を開催しました。会員とその家族7名で自己紹介をしながらランチに舌鼓を打ちました。

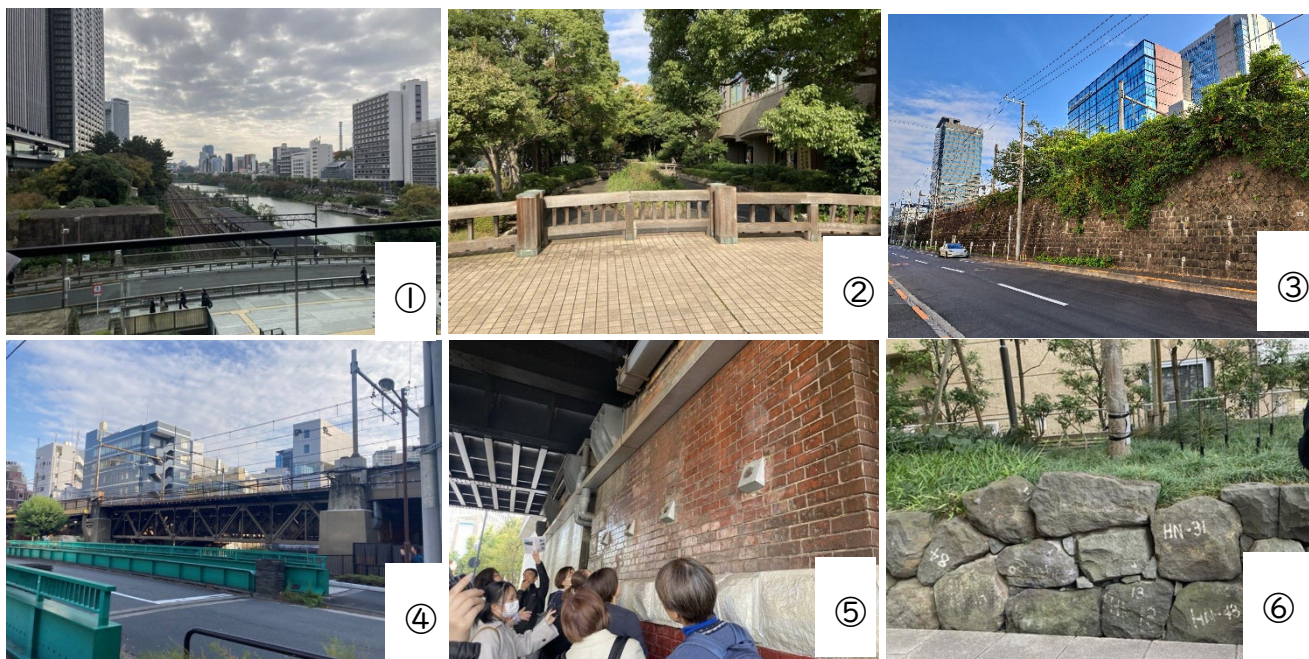
### (2) 13:00:(飯田橋コース)

飯田橋西口駅前に集合しました。今回のイベント担当者と東日本支部の沼田支部長の言葉の後、阿部先生による案内がスタートしました。なんと説明用にマイクと特別冊子まで参加者全員に配布していただきました。飯田橋駅舎2F 史跡眺望テラスより、牛込濠<sup>①</sup>と牛込御門の石垣<sup>①</sup>を眺めました。中央線の前身である甲武鉄道時代、「牛込駅」と「飯田町駅」がありましたが、1928年に両駅の間「飯田橋駅」ができ、牛込駅は廃止にされました。2020年7月に飯田橋駅のプラットホームは200m新宿寄りに移設<sup>①</sup>され、西口駅舎はリニューアルされました。これは、もともと急なカーブ区間にあったため、ホームと電車の隙間が過大であったことを解消するためです。新設された駅はかつて牛込駅があった場所付近であることから、一部の鉄道ファンの間で話題になりました。またかつて舟運物資の積み下ろしに利用した飯田濠跡地には飯田橋セントラルプラザ<sup>②</sup>が開業され、跡地の名残を感じることができます。外濠通りと目白通りの五差路のあたりは、外濠と神田川の合流点で河川氾濫が起きやすい場所でした。氾濫した神田川の水害が江戸城に及ばないように堤防が築かれた場所が現在の飯田橋駅・水道橋





駅間の盛土として利用されています<sup>③</sup>。さらに、1904年に設置された「小石川橋通り架道橋<sup>④</sup>」やその橋台と橋脚を見学し、当時のイギリス積レンガ造<sup>⑤</sup>に触れることができました。飯田橋駅締めくくりは複合施設のアイガーデンエアで、甲武鉄道「飯田町貨物駅」の跡地です。平川の護岸の石を利用した「平川の径<sup>⑥</sup>」が整備されており、貨物操車場の名残であるレールがレガシーとして残されています

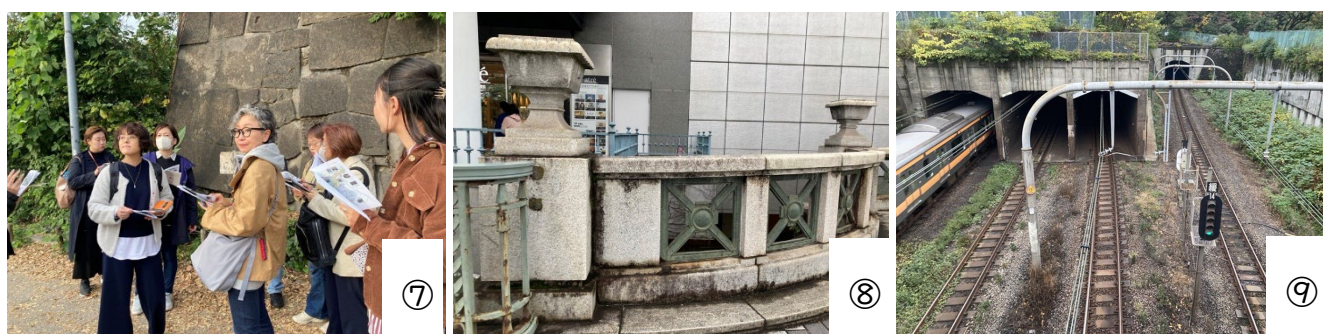


飯田橋コース

た。

### (3) 15:00: (四谷・赤坂見附コース)

水道橋まで歩き、そこから総武線で四ツ谷駅へ移動しました。かつて江戸城警護のための見張り場所である「見附」は城郭の要所に設置されていました。地名として残っているのが四谷見附と最終ゴールである赤坂見附の二つです。この四谷見附は四谷門に設置されていました。その石垣<sup>⑦</sup>の一部を見学しました。その四谷見附の交差点付近に、四谷見附橋が1913年に設置され、一部旧橋の意匠<sup>⑧</sup>を残しています。都道414号線を下った先に御所トンネルを臨むことができるあさひ橋があります。この橋から1894年の甲武鉄道の新宿～牛込間の延伸工事により建設されたトンネルのうち、唯一現存する御所トンネル<sup>⑨</sup>と、1929年に新設された新御所トンネル<sup>⑩</sup>から中央線や総武線が通過する様子を眺めました。その後、江戸城の外濠の一つ「真田堀」だった場所(現上智大学のグラウンド)を見学しました。さらに外堀通りを進み真田濠と弁慶濠をつなぐ喰違土橋を抜け、紀尾井坂の変で知られる紀尾井坂<sup>⑪</sup>へと進んでいきました。急な坂を下ると、清水谷公園があります。ここは紀州徳川家屋跡地で知られています。大久保利通の哀悼碑や玉川上水の石枡も見ることができます。このあたりは緑豊かで都会のオアシスを感じられる場所でした。公園の先に行くと、弁慶濠<sup>⑫</sup>と弁慶橋<sup>⑬</sup>を見ることができます。弁慶橋を渡り、永田町方向へ進むと、赤坂見附があった赤坂門の石垣<sup>⑭</sup>が聳え立つ様子を見ることができました。散歩コースはここでゴールとなりました。







⑩



⑪



⑫

四谷・赤坂見附コース

(4) 17:00:懇親会

赤坂見附駅近くのえびす赤坂店で懇親会を開催しました。阿部先生と学生さんと正会員とその家族の総勢14名が集まり、世代を超えて大いに盛り上がりました。



おわりに

今回、初の試みであった土木遺産さんぽでしたが、参加者の皆さんから非常に好評を得ました。多くの人にとっては、今回歩いた町は職場があったり、乗換駅に使ったり、休日に訪れた経験があると思います。これまで何気ない風景の一つに過ぎなかった石造や堀や橋やトンネル等について、なぜここにこのような構造物が建設されたのかを知ることができました。それによって、歴史を再確認したり、地名の必然性を再発見できる機会を得られました。阿部先生とお話させていただき、サステイナブルな街づくりを考える上で、昨今安易な都市開発が見られるなかで、土木遺産を巡ることで、これからの都市づくりに生かせるヒントが見つかることを知りました。温故知新の街づくりによって、活気ある街が持続していくことを願っています。

報告：河野 麻衣子（東日本支部）